明日の青梅のために!!

島﨑　実 後援会報

No8

平成29年4月20日発行

島﨑　実後援会事務所
〒198-0063
青梅市梅郷6-1511
TEL　0428-76-0358
E-Mail　info@minoru-kai.com

◎梅の里再生の動きが着実に進んでいます。2月25・26日には農家用の苗木2千本が植栽されました。

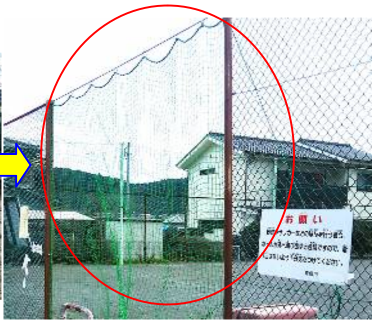
・農家用の苗木です。・私も100本植えました。　　・3月11日、梅の公園での家族による植栽の模様です。

◎梅郷6丁目の都道歩道白線が復旧しました。

・こんな状態でした。　・きれいに引かれました。

◎柚木町1丁目運動広場の防御ネットが完成しました。

・子供達が遊ぶボールが外に出て危険でした。



◎昨年12月議会で質問した橋梁からの飛び込み自殺防止看板が、東青梅以西の全駅に設置されました。

・宮ノ平駅（2か所）　・日向和田駅（2か所）　・石神前駅　・二俣尾駅（2か所）

◎2月定例議会は2月20日市長の施政方針演説。28日～3月3日に委員会審査と28年度補正予算審査、6日～8日に一般質問。13日～16日に29年度予算審査を行い、22日に予算を可決し終了しました。
また、市立総合病院の建て替え、新病院基本計画が全会一致で承認されました。29年度から基本設計に入ります。新病院は現地建て替えで、予算の総額は275億円、内238億円は借入で賄う計画です。新病院は高度急性期医療に特化し、病室・手術室等を拡充し、入院収支の向上で借入金を返済します。

「平成29年度予算」 の概要は下記の通りです。

1、一般会計の概要

(1) 歳入では、市税・国庫支出金等が増額も、地方消費税交付金・都支出金等が減額。

(2) 歳出では扶助費・補助費が増加、人件費・物件費は減。長期計画事業支出が増加。

(3) 財政規模は縮小も、多額の財源が不足。臨時財政対策債を限度一杯借入れ、財政調整基金は取り崩さないこととした。

(4) 財政規模は485億円（前年比1.8%減）

2、市債は29年度末見込み590億円（前年度比△10億円）基金残高は67億円で変わらず。

（単位：百万円）

項　目	平成29年度	平成28年度	増減
1.一般会計	48,500	49,400	△900
2.特別会計			
（国保会計）	17,547	17,303	244
（下水道会計）	5,131	5,279	△148
（介護保険）	8,837	8,417	419
3.モーターボート	32,864	32,932	△67
4.病院事業会計	17,796	17,450	345
（合計）	(133,462)	(133,429)	(33)

◎3月3日の全員協議会では12件の市長提出事項が示されました。主な事項は下記のとおりです。

1、青梅市公式キャラクターについて・・・青梅市親善大使・篠原ともえさんのデザインによるものです。
2、青梅市消防団員等の公務災害における補償基礎額の見直しについて
3、平成29年度国民健康保険税および後期高齢者医療保険料の軽減判定所得等の見直しについて
4、昭島市からの「可燃ごみの共同処理の依頼」にかかる西多摩衛生組合の調査・検討結果について
5、青梅市保育所ﾊﾞｽｽﾃｰｼｮﾝ事業検討会議の最終報告について・・・見送りの結果となりましたが、市内東部保育園では待機児童が発生、一方西部では定員割れの状況。報告を今後に生かすよう要望しました。
6、成木地区公共交通検討委員会報告書（案）および西東京バスのダイヤ改正について
7、梅の里再生・復興プラン平成29年度版について・・・①農業分野　②観光・商業分野　③共通分野について、達成すべき目標と平成29年度の重点事業について示しています。

◎一般質問では　(1) 病児保育事業の推進と病児対応型保育施設の早期設置について、及び
(2) 消防団員確保への支援及び施策と人口減少に向けた消防団組織のあり方について質問しました。

① 病児対応型保育とは、保護者が就労中子供が病気になりまだ回復していない場合に、病院・保育所等に付設した施設で、子供を預かる事業。福生の施設を視察し、青梅にも設置を求め質問しました。
② 地域の安全・安心に欠くことのできない消防団。その団員確保支援策と組織体制について質問しました。

私　の　質　問（一部）	市　長　答　弁
「病児保育事業の推進と病児対応型保育施設の早期設置について」	
(1) 青梅市には児童が回復期にある病後児対応型施設はあるが、病児対応型施設はない。都内26市と近隣市の状況を問う。	(1) 回復に至らない病児を預かる病児対応型施設は都内26市の内22市にある。近隣では福生、羽村にあり、あきる野市も平成30年から開始予定である。
(2) 市内唯一の病後児対応型施設「青梅ゆりかご第二保育園」を病児・病後児対応型（併用型）施設に変更できないか？	(2) 医療機関でない施設が病児対応型を実施する場合、日常の医療面で指導助言を行う医師の選定が要件。設備面や医師の指定の課題から、現状では困難。
(3) 施設は病院・診療所に付設する場合と保育所等に付設する場合がある。市内に実施意向のある先はあるか？意向調査を行うか？	(3) 病院・診療所や保育所の意向調査は、現在行っていない。今後実施施設の課題等を整理し、運営方法の検討後、意向調査を実施し、各機関と協議を行う。
(4) 市立総合病院に付設するのが最も効果的と考える。総合病院内に設置する検討はできないか？総合病院隣接の院内保育所の増改築は？近隣に適格物件を求めるのは？	(4) 他市では、市立病院内に病児対応型施設を設置している例もある。しかし、総合病院内や院内保育所への設置は使用可能なｽﾍﾟｰｽがなく困難。近隣物件等への対応については、法令を整理し研究する。
(5) 病児対応型施設ができれば、病児・病後児・体調不良児と一貫した病児保育体制ができ、子育て世代へ大きなPRになる。難しい・難しいでは何もできない。市長これやりましょう！	(5) 子育て支援に向けての取り組みとして、近年の就業形態の多様化や家族構成の変化による、様々な保育需要への対応も必要。病児対応型施設については、必要な機関と協議を行い、実施方法等検討していく。
「消防団員確保への支援及び施策と人口減少に向けた消防団組織のあり方について」	
(1) 青梅市の消防団員の定員数、充足率及び推移。また、団員不足に陥る要因についてどう捉えているか伺う？	(1) 定員数は670人。現状571人で充足率84.8%。団員不足に陥る要因としては若年人口の減少、就業構造の変化、地域帰属意識の希薄化等と考える。
(2) 団員確保に地元は大変な苦労をしている。市として団員確保をどう支援するのか？	(2) 団員の健康診断の実施。団員互助会の各種福利厚生事業の拡充。「消防団応援の店」事業協力、等
(3) 消防団員不足を補う施策について伺う？消防団OBを任命する機能別団員の役割と位置づけは？今後どう拡充していくのか？	(3) 機能別団員の活動は消火活動や大規模災害時の活動等に限定している。分団・各部ごとに、団退職者に協力要請する他、まとい会とも連携し充足に務める。
(4) 協力事業所表示制度を評価する。この制度の選考・表彰基準と拡充策について伺う？	(4) 従業員が複数名入団している事業所や消防団活動に積極的に協力している事業所を選考する。 ホームページ・広報等で周知する。
(5) 横浜市では団員の15%が女性。女性団員の役割と拡充策について伺う？	(5) 女性団員は定員16人に対し現状10人。消火活動は行わず、予防啓発活動。団本部付で充足に務める。
(6) 団員募集・災害時対応等で地域との連携、自治会との情報共有等が必要と思うが？	(6) 地域活動の中核となる自治会との連携強化は団員確保等でも重要だが、全ての情報共有は難しい。
(7) 人口減少に向け、部統合等、消防団組織のあり方について市長の見解を伺う？	(7) 組織再編検討の必要ありと認識するが、市の実情に応じた消防力に付、団本部と協議する必要がある。

＊一般質問の質問及び答弁の全文はﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http//www.minoru-kai.com に掲載してありますので、ご覧いただけると幸いです。